

食べ物

益城中央小4年 新田はなこ
食べ物、いつもうれしそうに運ばれてくる。
全部食べてもらえると、もっとうれしそうにおなかの中で栄養になる。
でも、残されると悲しそうにしょっかんにもどっていく。
食べ物はみんなに全部食べてもらえるようにいのっている。

「いただきます」と

「ごちそうさま」

山中1年 塚田朋実
作ってくれた人に感謝をこめて「いただきます」

私たちのために死んでしまった動物や魚の皆さんに感謝と謝罪をこめて「ごちそうさま」
そんな人達のためにも
ご飯は残さずしっかり食べよう

自分のために
自然のために

作文

のこさず食べたよ

益城中央小2年 矢野のり子
わたしは、二年生になってすぐ今年ががんばりたい目ひょうをきめました。それは、「きゅう食を、のこさず食べる」ということです。

わたしは、一年生の時、大きいおかずが多くついである時や、にがてな野さいが入っている時はのこしていました。それと、魚は、ほねがあつて食べにくかったからよくのこしていました。

一年生のおわりごろきゅう食センターを見学しました。そのときセンターの人たちがしんけんな顔で大きなおなべに、魚や、とうふや、野さいなどをに入れて、一生けんめい作っているすがたを見て、これからは、きゅう食を大切に、のこさず食べないといけないと思いました。それと、切った魚をなべに入れているところを見て、わたしがきゅう食に出た魚をのこすことはいのちをすてることになるから、これからはのこさず食べようと心にきめました。

二年生になってから、わたしはまだ一どもきゅう食をのこしたことがあります。フライにしてもある小さな魚は、ほねまで、パリパリ食べれます。たくさんかんで食べると、どんどんおいしくなります。にがてなピーマンは、すのものにしてあつて、わたしはすのものが大すきだからおいしく食べれます。パセリも小さくしてあるから食べれます。

わたしはきゅう食センターの人たちが、いのちをむだにしないように、くふうしておいしく作ってくれているんだなと思いました。

わたしは、これからもおいしいきゅう食をのこさずしっかり食べて大きくなりたいです。

給食に感謝

益城中1年 前田鳳子

私にとって初めての学校給食はカレーでした。その時のことをよく憶えています。好き嫌いの多かった私は、初めて食べる給食が不安で仕方ありませんでした。でもカレーだったら大丈夫、きつと食べられると自分に言い聞かせて、運ばれてきた給食を見ると、カレーの中にグリーンピースがたくさん入っていました。それを見て泣き出してしまった私を、担任の先生は一生懸命なだめて、グリーンピースには栄養がたくさんあること、少しでもいいからがんばって食べるようにと話して下さいました。

あれから七年、中学生になった私は、今でも給食が大好きという訳ではありません。それでも好き嫌いは随分減ってきたし、給食の大切さ、ありがたさはよく解ってきたつもりです。でもそれは、何かの出来事をきっかけに突然変わったのではなく、これまで食べてきたおよそ一五〇〇食の給食の積み重ねが少しずつ私を変えてきたのだと思います。苦手だからといって残したばかりに放課後の部活動がお腹がすいてとてもつらかったこと、最初はあの苦手だったのに、いつの間にか好物になっていった

大豆のいそ煮、嫌いなものだらけだった給食の中に一つずつ楽しみなものが増えていきます。また、私達が食べている給食の食材は益城町の食材が多く使われていること、つまり「地産地消」ということです。物価が上がっている中、給食センターの方達が安い給食費の中で精いっぱい工夫されて献立を用意されていることなどを、折にふれて知るにつれて感謝の気持ちもだんだん大きくなってきました。

私が給食を食べられるのはあと二年ちょっとです。中学校を卒業して大人になったら、きつとあのグリーンピース入りのカレーや大豆のいそ煮がまた食べたくなると思います。苦手だった海草サラダやパリパリ焼きそばだつてきつと懐かしくなるでしょう。だからこそあと二年分の給食を大切に感謝しながらいただくなくてはと思います。



1月20日、住永町長が給食巡回食として広安西小学校を視察し、2年4組の32人の児童と楽しく給食を試食しました。